

11月に入りました。暑さも去り、少し風が肌寒くなりましたが、空気が澄んで晴れ渡っています。少しずつ山や木々が赤色や黄色に染まりますので、色鮮やかな風景をこれから楽しみたいですね。

らぶれた

切っても切れない ご縁です

もうかれこれ30年以上お世話になっているヘアサロンが天神にあります。平成の初め、会社勤めのころ福岡支店開設でこちらに戻ってきた時に、職場メンバーの友人が働いている、というきっかけで通うようになりました。当時は眉毛の濃いのも同じくらい知る人ぞ知る黒々フサフサした髪で、今どきは流行りませんがアイパーをかけたたりしておりました。(ゲゲ〜、信じられない〜という声があちこちで・・・)

一時は自宅に近いところの美容室や理髪店に浮気をしたこともありましたが、なんだかんだ言って元の鞘に納まり天神のヘアサロンに落ち着いております。マネージャーのマッサージが見事にツボに入るので。しかも椅子に座るとすぐにコックリと居眠りを始めるほどに魔法の椅子だし。あまりに気持ちよくて髭剃りの途中寝ていたところをピクッと身体が反応し、危うく剃刀で切りそうになったくらい睡眠サロンのようになっていました。さすがに怪我はしたくないので、眠る方を優先して、喉嚨周辺の髭剃りをなしにしてもらいました・・・。散髪屋に行っているのに本末転倒ですわね。マネージャーは5年ほど前にリタイヤされたので、今はマスターをお願いしています。



マスターは話好きで僕が不動産・住宅関連の仕事をしていることをご存じなので、何かと再開や不動産市況の話が弾みます。開設以来かれこれ30年以上営業していたビル地下がビルの天神ビッグバン構想による建替えで明渡しをする必要が生じ、私は店舗については門外漢ですが、明け渡す時の移転補償はどうなるのか?とか、どうやって探すのがいいか?とか相談の手前の雑談が一時多くなった気がします。かれこれ2年くらい探していたのでしょうか、しっくりきた移転先は、なんと100mも離れていない同じような地下街の一角という抜群の場所。1年半程前に無事移転して落ち着かれました。店を継がれる息

子さんがコーディネートしたことで店内の雰囲気も若返ったし、何と言っても利用客にとってすぐ近くに移ってもらって大喜び!めでたしめでたし、となりました。

と、ところが、天神ビッグバン構想の特例期限が街区をまたがるエリアの再開発については延長され、今度はその地下街の一角も地上の商店街、道路を挟んだ商業店舗2棟とを合わせた広大な敷地での再開発構想が移転オープン直後の昨年末公表されたのです。



建設中の(仮称)新福岡ビル

しかし地下街、地上の商店街は組合運営でワンオーナーではありませんので2030年と言われる開業目標に果たして間に合うのか?ヘアサロンのオーナーは、テナントとして入っており協議会に関わってはいないので「なんか揉めてみたいよ!間に合わんよ〜」って感じでのんびり構えておりましたが、また移転問題が近い将来生じるのか?同じ移転でも再開発ビル内に戻れる移転であれば良いですけど、ではその時の仮店舗は?僕は一人の客として近い範囲で長く営業を続けてほしいとだけ願っております。

ちなみに散髪代は最近の2度の値上げで4,400円。3週間に一度行っていますので家人に言わせると「高過ぎじゃないの?大した長さ切っていないのに〜」ですって。たしかにね、散髪代も1g当たり〇円とか1cmあたり〇円とかになれば短髪族(^_^)には有利になるな〜、なんて妄想しています。次に行ったときにオーナーに言ってみるか〜、ちゃんちゃん!



代表取締役 樋口繁樹



2023年
11月号
Vol.93

発行：株式会社ラプロス
発行人：代表取締役 樋口 繁樹
〒810-0001
福岡市中央区天神1丁目12番1号
日之出福岡ビル5階
TEL 092-737-2211
FAX 092-737-2212
弊社のHPは下記URLより
ご覧いただけます。
<http://www.lapros.co.jp/>
編集担当：松本、大下、藤吉

手洗い・うがい
今後も続けましょう



思い出すと



クスツと笑えるエピソードで ストレス社会を生き抜く

文：山口

何だかそれっぽくてすごく格好の良いタイトルになりました。人間生きているだけでストレスがかかってくるもので、ストレスに縁のない方はいらっしゃらないのではないのでしょうか。

このストレス社会を生き抜くためには、気持ちをリフレッシュする瞬間が必要だと思うのです。それは何か?と考えた末に最近私が試していることは、クスツと笑えるエピソードを思い出すことです。誰でも1つや2つ、笑えるエピソードがあるのではないのでしょうか?それを思い出した瞬間、沈んでいた気持ちがリフレッシュされることがあります。

私はそんなエピソードを、落ち込んだ時用に2つ準備しています。



1つ目は、5年以上前の出来事。夕方、彼女(現在の妻です)と2人で気分転換に自宅近くの神社まで散歩に。その帰り道、ふとお好み焼き屋

さんに寄ったときの話です。こんなところにお店があったのかと思いながら入ってみたのですが、とりあえずおすすめのお好み焼きと生ビールを注文しました。

店内を見渡すとレトロな雰囲気、ご夫婦で切り盛りしていらっしゃる様子。しばらくして注文したお好み焼きが運ばれてきたタイミングで、早くも生ビールの残りがあと少しになってしまいました。おかわりしようとしたところ、他の席に座っていたお客さんがグラスを手に厨房の中に入り、ビールサーバーでビールを注いでいるのが見えました。少し変わったお店だなと思いつつも、それはそれで味があって良いと私もグラス片手に厨房へ進みます。ビールサーバーに手をかけた瞬間、感じる大将の熱い視線。「セルフですよ?」と、どや顔で聞くと大将が爆笑し「違いますよ」。先ほどビールを注いでいたお客さんも爆笑。どうやらこのお客さんは昔からの常連さんだそうで、普段から顔パスで厨房の中に入っていたのでした。

冷静に考えるとそんなスタイルなかなか無いよな、と羞恥心でいっぱい私を笑いとばしてくれた大将と常連さんに感謝ですね。



2つ目のエピソードは割と最近の出来事。休みの日にユニクロに洋服を買いにいった時のことです。最近画面をタップして商品を購入する、セルフレジが主流になっていすね。この日も会計を済ませた商品を持って、袋に詰めるためにレジの後ろの作業台に移動しました。そこで洋服をたたんでいると、ご年配の女性が近づいて隣にピタリと止まり一言。「すみません、サイズがないのだけど」。訳も分からず固まったまま女性を見る私。数秒後お互いにその状況を理解したのです。女性はハッ!となり「店員さんかと思った」と言って立ち去って行かれました。間違われても当然だったかもしれません。

確かに、その日の服装はユニクロのジーンズと黒のポロシャツでした。

趣味などで気持ちを切り替える方法もありますが、落ち込んだ時に思い出すとんだか気持ちやわらぐような、ちょっと笑えるようなエピソードのストックがいくつかあると良いですね。私の話、クスツと笑えましたでしょうか?



免許皆伝 MENKYOKAIDEN

その71

『アラキが家を建てたとき』の巻 その5：どんな家にする？編

私アラキの戸建てへの思いをつらねるこのコーナー、今回で71号となりました。前×4号から続く「アラキが家を建てたとき」シリーズ。おかげさまでご好評をいただき、今回は『どんな家にする？』編です。

今から22年前、自分で設計して家を建てようと思ったアラキは3つの条件を満たした土地に出会い、住宅ローンを借り、無事土地を買うことができました。いよいよ本格的に設計を始めます。（ここまで前回までのおさらい）

「設計とは思考の発散と収束の繰り返しだ」と新卒で入社した当時、設計を教えてくれた上司にしょっちゅう言われたことを思い出します。コンパクトでありながらも家族で楽しい生活ができる家を目指して、部屋の機能や空間イメージをあれこれと考え＝発散、それをカタチに組み立てる＝収束。発散と収束を繰り返していきます。

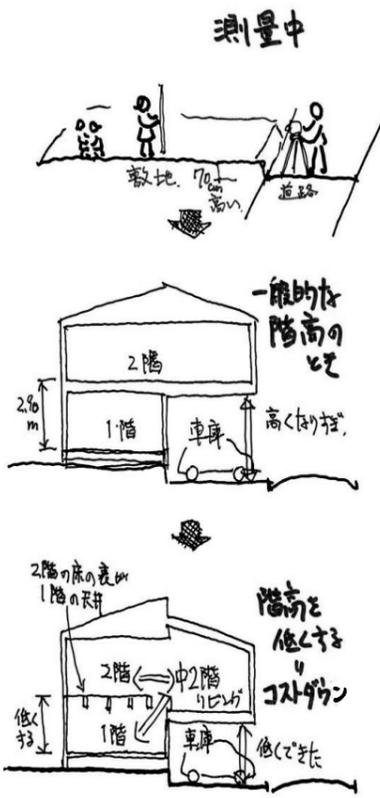
まず子供部屋。娘2人（当時4歳、1歳）が子供部屋にこもらないように独立した個室を与えることはせず、2人の子供部屋は1室とします。



リビングからオープンに見える位置とし、ロフトを付け、将来は2室に分けられるように計画します。夫婦の寝室はベッドが置ける最小面積とし、代わりに3帖以上の広いウォークインクローゼットを設けるようにします。将来の書斎や作業場として予備室を1室設けることにして、2階リビングの3LDKの間取りを細部までプランニングしていきます。

狭い敷地にクルマ3台を並べるため、家の1階には2台分の車庫を組込みます。そのために家の断面、つまり部屋の高さ関係が重要になります。何でも自分でやってみるアラキは、当時の職場（設計事務所）の測量機材を借り、ヨメさんに手伝ってもらって敷地を正確に測量したところ、敷地は道路から70cm高くなっていました。この高さの差を利用して設計することにします。

木造住宅の1階の床は地盤面より45cm以上高くするように建築基準法で定められていますので、雨水勾配も計算して車庫の床から1階の床までの高さを1.1mに設定します。1階床から2階床までの1階分の高さのことを階高（かいだか）と言うのですが、一般的な木造住宅の階高は2.9~3mです。2階の床をフラットにすれば車庫の床から2階の床までの高さは



1.1+2.9=4.0mとかなり高くなってしまい、構造的に不安定になり、建築費も割高となってしまいます。

そこで家の断面を再検討。1階には天井を張らず、2階の床の下面をそのまま1階の天井となるようにし、その分の高さを抑えます。さらに全体をスキップフロアとして、車庫の上のリビングを中2階とすることにします。この断面構成はこの土地を見つけた時から考えていたのですが、中2階のリビングを介して1階~2階の家全体が繋がって一体の空間にしようと企んだものです。発散と収束を繰り返し、アラキが目標とする、どこにいても家族の気配が感じられるワンルームのような家がだんだんとカタチになってきました。

最大の課題である1階の車庫。一般的な車2台分であれば5m×5mの広さが必要なのですが、アラキはシトロエン2CVという小さなクルマを2台並べるために、間口4.55m×奥行き4.55mとすることにしました。半端な寸法ですが、日本では昔からの名残で3尺=0.91mを建物の基準寸法としており、建材・資材の多くがその寸法を基準に作られているので、0.91mをベースに設計すると無駄がないのです。

が、ここで問題発生。柱と柱の間隔をスパンと言い、柱の間に梁を渡して構造を支えるのですが、木造2階建てのスパンは3.6~4m程度が限界です。

4.55m×4.55mのスパンでは広すぎて構造的に難しいため、このままでは車庫を組み込んだプランを実現することができません。困りました。（さらに次号へ続く。）



やってみたいこと



～ キャンプ ～

文：松本

我が家に限らずかもしれませんが、子どもたちは、旅行が大好きです。私の子どもが学校の授業で、伝言メモボードをつくって来ました。飛行機のカタチの伝言メモボードを作り、『旅行に行きたい…』と書かれていました。それを見たとき、これはなんとかしてあげたいなと思えました。

少しずつ日常を取り戻そうとしている時期でしたが、旅行に行くのはなんだかまだ不安と覚悟していたところ、「密を避けることができるし、キャンプが楽しいよ。」という話を聞き、思い切って



決行しようと思いました。

そこで困ったのは、キャンプ道具です。何が 필요한のか調べていても、通常レンタルできるものがコロナの影響でレンタルできなくなっていました。

準備するものを紙に書いていきました。食器、食器があるなら、箸、箸があるなら、まだ箸を上手に使用できないこどももいるので、スプーンとフォーク、お



を教えてくれたのです。仕切り直してデイキャンプをすることにしました。

いよいよ決行日です。キャンプ場につくと、まず車から荷物を運び出すことからはじまりました。

この荷物を運ぶのか、と落胆している私をよそに、子どもたちは嬉しそうにリヤカーに荷物を積みました。リヤカーを引っ張っていく子どもたちの姿を、私は後ろから押しながらかみ見守っていました。いつもより背中が大きく感じ、頼もしかったです。

次は、ご飯の準備です。ご飯何がいい？と聞いても『お肉～』と毎日まいにち同じ回答でお肉さえあれば生きていけるのでは？と思うほどお肉大好きっ子なので、要望に応え、バーベキューの準備に取り掛かります。

ここで初心者あるあるかもしれないのですが、



火おこしができません。なかなか火がつかず、大人2人は苦戦。そんなとき、巡回中の管理人さんが『そのへんにある松ぼっくりをひろってごらん』と声をかけてくれました。なんと、松ぼっくりが着火剤の役割をしてくれるとのことでした。

松ぼっくりを入れると火おこしができ、無事にキャンプ場でデイキャンプができました。

子どもたちは、バーベキューで食べたお肉よりも、火おこしが印象に残っているようでした。あれから1年程経ちました。

今度こそお泊りキャンプをしたいな～と思います。



ご紹介キャンペーン

住宅のご購入を検討されているご家族様・ご友人様をご紹介ください



5 商品券 万円分

ご紹介者さまにプレゼント！

※ご紹介者様からの紹介でご成約に至った場合

家や土地を売りたい方もぜひご相談下さい！

新築一戸建て「プロスベリテ」ホームページはこちら



新築一戸建て「プロスベリテ」Instagramはこちら



編・集・後・記

文：大下

10月に入った頃からグッと涼しくなりましたが、このらぶれたーが皆さまのお手元に届く頃には冬の気配を感じ始めているのではないのでしょうか？今年のカメムシの大量発生が話題でしたが、『秋にカメムシ

が多いとその年の冬は大寒波が来る』という言い伝え(?)があるそうですね(科学的根拠はなさそうですが、)。年々秋が短くなってきているなど感じますが、この貴重な過ごしやすいつきにたくさん出掛けて、四季を楽しむ余裕のある大人になりたいです。

らぶれたーのご意見・ご感想をお聞かせください！

ラプロスの広報誌「らぶれたー」は2008年12月に創刊し、今号で93号となります。ここまで発行を続けることができたのも、温かく見守っていただいた皆さまのおかげです。皆さまのご意見ご感想をぜひお聞かせください！

住所：福岡市中央区天神1-12-1-5F
FAX：092-737-2212
MAIL：info@lapros.co.jp
「らぶれたー係」まで